



舞月



よみたりあて又中や雛子のあ
たへてささるるかきしきと 柳
物うけとんれハ階あり春の雨
あけ時門をやくとてぬるむ風
襟ニツツももろんく付れ竹
板やなれくつる 春うを
承後いり何々うらん 層かすこ

加青
稻三
松三
板九
杏丹
季春

年礼は二日おられハ余下訓の
柳の者の入るかこやさるる新戸の
子あらんやむとハもたぬ能の籠
長男や七日ははるあへりわさ
去の春うあつてえれと春を
石居のそをわうらまもし何
板つづく入江の むうりう
竹の葉乃くあさもせはまき
えうまけくこりしたるまきあな
いんを おもなきえんよ 旭 うあ
風の来ておられはあさる余きり
きやふ入やとるうれん 此あ
木の根小砂のうらま 春の風
鳴鹿のあもかえすこもれ 雨

梅一
枕流
及耕
三魁
松象
不堂
白踏
要湯
保住
蓮里
文顯
可涼
兼高
芦角

不さふあてえんあさるるあ
人音は枝折不春のともかえん
春もとん入とまかか 此の中
雨晴てえんう日くしんあ
くかあもおさるるをえれあ
あめれもけぬりのとや 春の山
三日月々 法不細くまか此

文秀
好水
藤茂
幸山
屋外
電簾
一斗

明るる小長あさるるや日の白
すのあさるる小長も飛や初日
深山う水くけもちて春れ
旅のくあて申うき住居
空ん比すのあさるる何や春木山
それのさや 層くこもれぬ

李陽
怪山
子亭
琴丸
二橋

子の春

軽不くも

七十二





喜の友

